

石本貞夫委員

地域支え合い体制づくり事業の内容は。

笠原福祉課長

この事業は、地域社会における日常的な支え合い体制の構築を目的とするもので、事業の一環として今回、「要援護者支援システム整備事業」を実施する。

これは、紙ベースであつた要援護者台帳を電子システム化するもので、台帳の管理・整備作業等が円滑化できる。このシステムは、住宅地図上で要援護者宅を視覚的に把握することができ、災害時にはこうした要援護者の情報を自主防災組織等の関係機関へ提供することで、要援護者支援に役立てることも可能である。

吉田光子委員

要援護者支援システムの要援護者とはどのような方が対象となるのか。

笠原福祉課長

要援護者とは、災害時に一人で避難が難しい方のことをいい、ひとり暮らし高齢者、高齢者世帯、要介護者、障害者、難病患者、妊婦、五歳未満の乳幼児、日本語に不慣れな外国人等である。

なお、今回の事業では、六五歳以上のひとり暮らしの方、六五歳以上の世帯、重度障害者（一・二級）の方々を対象として台帳の電子システム化を実施するが、今後対象範囲を拡大していく考えである。

森長秀行副委員長

要援護者的人数は。

笠原福祉課長

住民基本台帳ベースでは、ひとり暮らし高齢者一、二七四人、高齢者世帯は一、四九〇世帯、重度障害者（一・二級）世帯五三五世帯、母子・父子世帯一一六世帯、外国人登録者四七人となっている。

安心生活訪問員による訪問▶



ひとり暮らし高齢者訪問状況

森長秀行副委員長

今年度から開始している「ひとり暮らし高齢者安心事業」の実施状況は。

臼井社会福祉協議会事務局長

対象となる九四一世帯（貞光地区三九五世帯、半田地区三七一世帯、一宇地区一七五世帯）について、三名の安心生活訪問員さんにより、五月から訪問活動を開始している。

訪問活動は、一宇地区で一ヶ月程度、貞光・半田地区で一ヶ月半程度の日数をかけて一巡している。

八月からは三回目の訪問を行つており、現在、約八二%が終了している。

森長秀行副委員長

訪問活動では様々な話をされると思うが、町等への要望も出ているか。

臼井社会福祉協議会事務局長

当初は信頼関係を築きながら、町等からのお知らせや希望があれば地デジ等の情報提供を行つてきた。今後も訪問活動を続けていく中で、そうした要望等が出れば、社会福祉協議会と町で協議して対応していきたい。

介護保険事業

小坂重夫議長

過年度実績に伴う償還金の内訳を伺う。

吉本保険課長

各償還金の内訳は、国費四六二万六千円、県費一八四万円、支払基金五八万五千円、町費七九二万八千円となつていています。

半田病院事業

吉田光子委員

南病棟耐震改築工事に伴う病棟増築及び仮設病床工事の進捗状況は。

松岡総務課長

当初、東日本大震災による資機材等の確保が心配されたが、工程に大きな影響は受けておらず、工事はほぼ工程表どおりに進捗している。現在、増築分の建屋が完成し、今後は仮設病床を含め内装設備等に取りかかる予定である。

小坂重夫議長

工事全般での進捗率は。また、騒音対策について伺いたい。

鎌村事務長

現時点における工事全般の進捗率は、約四割程度と見込んでいる。

今後は作業効率も上がってくると見込んでいるが、工期内の竣工を目指し関係者と協議を進めていく。

三村病院事業管理者

屋上部の増築基礎工事に際し、騒音と振動により入院患者にはご迷惑をおかけした。

工事へのご理解ご協力をお願ひする中、二週間程度の期間についてご辛抱願つた。



半田病院本館4階増築工事

貞光中学校新築工事請負契約の変更

尾関伸也委員

今回の変更分は当初計画に含まれていなかつたのか。

西尾教育次長

今回の変更是主に外構工事分で、当初設計の一部変更と、新規追加が数力所ある。

小坂重夫議長

今後も契約金額の変更が見込まれるか。

西尾教育次長

工事費については契約金額の変更はないが、事業費については多少の増減はある。

義務教育施設災害復旧費委託料

吉田光子委員

この災害復旧費委託料の詳細について説明を求める。

市原学校教育課長

半田中学校・幼稚園グランドの河川側の擁壁部分を、県の災害復旧工事と並行して実施する予定の町工事分の設計委託料である。工事の境界としては、擁壁の川に面した部分が町の工事分で、グランドに面した部分が町の工事分である。

放課後児童健全育成費

石本貞夫委員

放課後に預かる児童は何年生までか。

市原学校教育課長

「げんきっ子」は、幼稚園から小学校三年生までが対象であるが、半田校区は小学校二年生までとなつてている。

石本貞夫委員

半田校区が小学校二年生までとなつてている理由は。

放課後に児童たちを預かる部屋のスペース不足が原因である。

市原学校教育課長

放課後に児童たちを預かる部屋のスペース不足が原因である。

台風一一号被災箇所

長浦英彰委員長

長橋の下流、貞光川左側の護岸が被災しているが、復旧後道路幅が以前より狭くなるのではないか。

木下建設課長

護岸部の道路は下流域で袋地となつていて、今回被災により、袋地の家屋へ車両が通行できなくなつたので、民地を通行させていただき孤立化を解消している。

復旧後は護岸を三〇センチ程度上げ、幅員は一〇〇センチ程度狭くなる可能性があるとの回答を県から受けているが、国の災害査定をまだ受けていないので、今後県と協議する。

災害時の対応

田村昭仁委員

台風襲来時等、災害に備えて本庁及び各支所に町職員が徹夜で待機していることは、町民にとって大変心強い。今後もこうした対応をお願いしたいが、このような待機職員の仮眠はどのようにしているのか。

兼西町長

住民の通報等に迅速な対応ができるように、警報発令時等には主な職員が自主的に庁舎に待機してくれている。職員は、住民の方に安心していただくのが自治体職員の原則という心構えで積極的に対応してくれており、職員の健康面には十分配慮したいと思っているが、仮眠を含めそうした調整は職員各自の自主的な判断に委ねている。



チャリティーコンサート（7月17日）

チャリティーコンサート

谷川真角副委員長

今回の補正の内訳は。

村上商工観光課長

貞光ぎおん夏まつり花火大会及びチャリティーコンサートに約三千人の方が訪れ賑わったが、音響等設備費、保険代、警備費及び電気設営費の増額により、今回追加補正を上程した。

田村昭仁委員

募金はどのように活用したのか。

村上商工観光課長

集まった募金は、救援物資に変えて岩手県大船渡市等へ炊き出しに向かうと聞いている。

台風六号の災害復旧工事

小坂重夫委員

設計委託料三〇〇万円の内訳は。

木下建設課長

三カ所分の設計委託料で、林道長瀬線が五〇万円、林道友内線が四〇万円、林道白井線が二一〇万円となっている。

農業振興プロジェクト

佐藤政正委員

このプロジェクトの内容は。

木下建設課長

五年計画で、半田大床地区の道路及び水路改良工事を行い、農業振興に役立てる事業である。

電源立地交付金

小坂重夫委員

今年度の事業内容と、来年度以降の交付継続は。

大垣副町長

この交付金は、吉良・切越発電所建設に伴い町に交付されているもので、今年度は継続されることとなつたが、来年度以降については未定である。

今年度は町道明谷一号線の舗装工事及び保育所の入件費に充当する。

住宅リフォーム補助金

田村昭仁委員

今回三百万円補正しているが、どのような状況か。

大川住宅課長

申請者が増加したため追加補正するもので、抽選でなく、全ての申請者に対し交付することとなつた。確定した申請者は七五名で、今回の補正で、補助額は一三〇〇万円、事業費ベースでは約一億円になり、経済効果が見込める。

町水道事業

谷川真角副委員長

道溝地区の消火栓設置場所と状況は。

武田水道課長

設置場所は、高架橋の下を予定している。状況としては、既設消火栓の口径が小さく、老朽化しているため、今回、道路改良工事に合わせて新しい消火栓を設置する。

田村昭仁委員

水道工事や道路工事を前後して行う場合、各課連絡を取り合い、連携して効率的で無駄のない工事を行つて欲しい。

ガードレール清掃

谷川真角副委員長

町内のガードレールが汚れ、景観を損ねている。町の作業班等で清掃できないか。

木下建設課長

現況を確認し、検討させていただく。

双方向連絡体制

長浦英彰委員長

災害時、道路が遮断され孤立する可能性がある集落がつるぎ町に五八箇所あると新聞報道されていたが、孤立した集落との情報伝達用に必要な双方型の機器は備えているのか。

中川総務課長

現在、分団に携帯デジタル無線機七三台と、一宇支所と本庁に衛星携帯電話一台を設置している。

産業廃棄物施設

谷川真角副委員長

笠仏にある産廃施設(現エコクリーン)の現状と水質検査の結果は。

浦環境課課長

月に一回程度の割合で当該施設の確認を行つてゐるが、本年四月以降、稼働している形跡はない。水質検査は毎年一回一一項目について測定しているが、いずれも省令に基づいた基準値以下で問題はない。

總務常任委員會

9月14日(水) 主な質疑

委員長
委員
委員

昭義
国作
洋子

副委員長 田野一三
委 員 小坂重夫
委 員 伊庭俊英

付託案件（四件）

所管する課

總務・危機管理・企画・地域創造
稅務・國保・住民・人權・出納等

補正予算 一件

主なもの

条例の制定・改正二件

- 通信設備等保守業務委託料
 - システム改修業務委託料
一、六九五万円
 - 条例の制定・改正一件
一〇五万円
 - 税条例等の一部改正
 - 地域情報通信基盤施設使用料条例

その他報告一件

- 株ラ・フォーレつるぎ山の平成二十
二年度決算及び平成二十三年度事業
計画について

税条例等の改正

三好昭義委員長

寄附を行えば、住

今回の改正で、寄附金の下限額を五千円から二千円に引き下げるもので、税額控除の対象となる。

地域情報通信基盤施設使用料条例

小坂重夫委員

地域情報通信基盤施設使用料士
レツツテレビの月額料金一、四八〇円
るのか。また、支払いが必要な理由は。

月額料金に含まれている。この使用料はフレツツテレビに必要な設備の使用料として必要であり、近隣市町や町内共聴組合のテレビ視聴料との公平性を保つ目的もある。

ラ・フォーレつるぎ山

小坂重夫委員 利用料金と

古林地域創造課長 利用料金と年間で集客の多い時期は。

地域情報通信基盤施設

管理費

小坂重夫委員

通信設備等保守業務委託料の内

容は。

古林地域創造課長

フレッツテレビに係る既存設備の保守代金である。

伊庭英俊委員

保守用予備機等購入費とは。また、フレッツテレビの加入状況は。

古林地域創造課長

ひかり電話加入に際し設置が必要な機器について、受注生産のため設置まで時間がかかるので、これを補足するための在庫用と保守用の機器購入費である。

フレッツテレビを普及させ、将来的には共聴組合はなくなるのか。

三好昭義委員長

フレッツテレビを普及させ、将来的には共聴組合はなくなるのか。

古林地域創造課長

フレッツテレビの導入(運用はNTT)目的は、地デジ化による難視聴地域対象者の救済で、共聴組合をなくすためではない。しかし、共聴組合の方が加入できないわけではない。



▶一宇地域自主防災会の土砂災害に対する防災訓練
(六月十二日 一宇公民館)

災害対策

伊庭英俊委員

災害時に土嚢を地域の学校等離れた場所から運んでいたのでは間に合わない。自主防災組織に土嚢用の砂を配備できなか。

立道危機管理課長

自主防災組織には、国の経済対策交付金を活用し、発電機等の機材とスコップ等の資材、土嚢袋等消耗品を配備している。土嚢用の砂は、学校等の砂場を活用しているが、一部地域には砂の補充も行っており、不足があれば追加配備したい。

消防施設負担金

伊庭英俊委員

この負担金の内容は。

立道危機管理課長

東日本大震災による消防団員の死者・行方不明者二五一名に対する公務災害補償費の原資に充てるための負担金である。

ふるさと納税

小坂重夫委員
ふるさと納税額の報告を求める。

木下税務国保課長

平成二十一年度は、二一名の方から、三五三万七千五〇〇円を寄附いただいた。
二十三年度は、八月末までに三〇万円をいただいている。

議会インタビュー

町民の
絆

声をかけ、組織を結成して「日浦地区をよくする会」と名付け、活動を始めました。会の趣旨は、地域の人が互いに心遣いできる（相互扶助の）活動から始めようというものでした。

よくする会では、学校周辺の草刈りやグランド整備等、ボランティア活動を熱心にされているので、運動会も毎年整備されたグランドで開催できますね。

田村 活動拠点が荒れていたのでは始まりませんから。よくする会だけでなく、いきいきサロンや老人会の皆さんも自主的に草刈り等を行つて下さっているので、学校周辺の清掃・校庭整備は年に一六〇一七回行っています。

大久保さん 活動拠点が荒れていたのでは始まりませんから。よくする会だけでなく、いきいきサロンや老人会の皆さんも自主的に草刈り等を行つて下さっているので、学校周辺の清掃・校庭整備は年に一六〇一七回行っています。

田村 会の発足から一六年が経過しますが、過疎化・高齢化による影響はどうですか。

大久保さん 発足時の会員数が一

大久保さんは現在、美馬西部消防団団長・JA美馬専務理事・日浦地区をよくする会会長等、幅広い分野で活躍されています。

田村 日浦地区は、地域の団結力がとても強いですが、その中心となる「日浦地区をよくする会」を発足させたきっかけというのは。

大久保さん 平成七年に日浦小学校が休校になつたことが契機ですね。それまで地域活動のほとんどを学校活動として実施してきましたので、休校になると活動の拠点がなくなり、

自ずと地域が衰退してしまふと思いました。そこでもう一度学校を拠点とした活動をしようと、地域の人によ



田村昭仁議員 大久保憲二さん
9月26日 日浦地域集会所

一人は萬人のために
萬人は一人のために

大久保憲二さんのモットー

二三名で、現在が八五名です。八五名の内、元気で活動できる人数は四〇名程度です。また地域には六五歳以上が半数を越える限界集落が一五

集落の内、一〇集落あり、過疎高齢化が進行し、活動をいつまで続けられるかという不安があります。しかし、皆で協力し合つて、こうした地域の活動を続けられる限り継続していく

たいとを考えています。

田村 今後も地域で助け合い、連携して日浦地域を守つていってください。

宮久保定夫さん 力ズカズ子さん

貞光字家賀（共に六八歳）

伊庭英俊副議長

朗らかで優しい定夫さんと辛抱強く働き者のカズ子さん夫妻は、長年苦労を共にした同志のような仲の良いご夫婦です。

伊庭 家賀地区も三〇年ほど前は、上と下で約一〇〇戸はありましたね。



宮久保カズ子さん（左）、宮久保定夫さん（右前）
伊庭英俊副議長（右後） 10月1日宮久保さん宅

に家族が六～七人というのが普通でした。今は七〇戸もないですし、一人暮らしか夫婦二人の世帯がほとんどです。

伊庭 宮久保さんはいつ頃からこのように多数の鶏を飼い始めたのですか。

宮久保定夫さん 昭和五〇年頃に、葉たばこから養鶏に切り替えました。徐々に鶏舎を増やし、九年前までは五カ所の鶏舎でブロイラー二万六千羽を飼育していました。

伊庭 九年前に大けがされて、よくここまで回復されたと思いますが、養鶏をやめようとは思わなかつたのですか。

宮久保定夫さん 他人に頼もうかと思いましたが妻が「飼つてみる」というので、少しでも手間が少なくなるように、ブロイラーから阿波尾鶏の

飼育に切り替えました。

伊庭 阿波尾鶏の方が手間が少ないのですか。

宮久保定夫さん そうです。飼育期間が短いブロイラーは年五回程度

雛から成鳥まで飼育しますが、飼育期間が長い阿波尾鶏は年三回しか飼えません。しかし、飼育が終わる都度

鶏糞の処理(掃除・水洗い・消毒)が必要で、この処理に掛かる時間が鶏舎五カ所合わせて約一ヶ月程度と大変な作業です。ですから、管理の楽な阿波尾鶏に切り替えたのです。

伊庭 カズ子さんも定夫さんと相談しながらできるとはいっても、お一人での作業は大変でしょう。

宮久保カズ子さん 夫がリハビリで自分のことができるまで回復してくれたので介護がいらず、私も飼育が

できます。今後も、できるかぎり仕事を続けていきたいと思っています。

伊庭 これからも二人で支え合い、仲良く暮らして下さい。

上野 クニ子智さん

一宇字大野
(八二歳と八五歳)
インタビュー
上家洋子議員

上野さんは、旧一宇村で収入役、教育長などを歴任され、一三年前に退

任後は、ご夫婦でお茶・野菜・果樹などを幅広く栽培されています。

上家 台風の被害はなかつたですか。

上野智さん これまでの台風は四国北側を通過するが多く、南風となつて、南向きの大野地区に風害をもたらしてきました。ところが今年の台風は四国より南側を通過したため風害がなく、被害も少なくてすみました。

上家 家が被災したときはどうするのですか。

上野智さん 昔から「出はで」といつて、地域の人々が総出で資材を持ち寄るなどして応援して修理します。

しかし、高齢化が進行し、この地区もほとんどが高齢者になり危険な作業ができなくなつたので、台風時期に

上野智さん

多いときは戸数が三

なると不安になります。

大野地区は昔から火災が多く、明治三十三年には大火災が発生し、戸を残して全焼したのです。当時は草葺きの家屋が多く、春の乾燥時期でしたので、次々と延焼してしまいました。私の家もその大火災の時、類火で全焼しましたが、当時は在住者も多く、大野地区の人や親戚の人が多いときは一日七〇人位がボランティアで手伝いにきてくれて、約一ヶ月半で入居できるようにしていただき、大変有り難かったです。

上家 昔は在住者が多かつたので、相互扶助ができるということもありますね。現在、大野地区の人口はどう



大野集落(一宇)



▲家賀地区の山並みは、見る者の心にしみる幽玄な景色です。(宮久保さん宅からの展望)

五戸ありましたが、今は一二戸で、人口は一八人です。昔の大家族でしたら二戸前ですね。

今は、若者の働く職場もなく、生活できる環境でないので、過疎化していくのは仕方がないと思っています。

上家 将来はどのように考えていますか。

上野智さん 今のような環境では、息子に帰つてこいとも言えませんし、また、言つても帰らないでしよう。

ですから、今は私たち夫婦元気です。元気で自動車の運転ができるうちには、やれる間は、空気が澄んで景色の良い一宇で居りたいと思います。

上家 これからも晴耕雨読で、ご夫婦仲良くお暮らし下さい。



左から上野智さん、上野クニ子さん、
上家洋子議員 (10月4日 上野さん宅)

議会の動き

- | | |
|------------|----------------|
| 7月 | 27日 県議長会理事会 |
| 8月 | 3日 行政課題研究会聴講 |
| | 16日 全員協議会 |
| | 31日 議会運営委員会 |
| 9月 | 9日 第3回定例会開会本会議 |
| | 12日 産業建設常任委員会 |
| | 13日 文教厚生常任委員会 |
| | 14日 総務常任委員会 |
| | 15日 決算審査常任委員会 |
| | 21日 再開本会議 |
| 10月 | 7日 議会広報編集常任委員会 |

地域力 日浦地域運動会 ～地域の団結力で続ける運動会～



▲9月25日、日浦小学校グラントで地域の運動会が開催されました。競技種目は20種、出場人員は毎回50~70人。競技が始まると応援席はほとんど空で、みんなが主役の運動会でした。綱引きのかけ声は「腰を痛めないように!」



要支援者台帳を地域で作り、皆が安心・安全に暮らせるよう取り組んでいます。



民生児童委員
副会長 小花安雄さん

地域には、独居が35戸あり、安否対策をどうするかが今の課題です。



地区老人会
会長 長井治一さん

今年で一七回目を迎えた運動会は、学校が休校となつた平成七年から開始されました。この一六年間で、人口は三六五人から一八三人と半減してしまいましたが、この間ずっと地域の皆さんのがんばりでグランドを手入れし維持してきたおかげで毎年無事にこの「地域の運動会」が開催できています。

地域は、自分たちで守ります。

地域の皆さんは日浦女性の会・よくする会・老人会・民芸保存会・自主防災会・いきいきサロン・消防第九分団等、いろんな会や団体に所属し、何事も連携して行っています。

平均年齢は六八・三歳ですが、研修会を開いて皆で町の現状を勉強し、把握することで地域が今、何をしたらいいか話し合うそうです。

今後もこうした日浦地域の自主的な取り組みを期待したいと思います。

町此地での豊かな体験や他の思いの丑話、知恵や生きがい、そして議会等へのご意見など、議員が訪問しまでの、是非お聞かせください。

議会だよりは、議会と町民の皆様の橋渡し役だと想えてます。

本誌をじっくり議会活動を詳しくお伝えする上で議会を身近に感じていただきたいとの議会インフォメーション欄が、住民の皆様との交流を図る良い機会にしたいと思つております。今後もやのこ読みやすい議会だよりを田指して懇親一同努力してまいりますので、町民の皆様のご理解・協力をいただけあわむお願い致します。

議会広報編集常任委員会
森原長 堀田光子

編集後記